

 新たな「京都市動物園構想」 

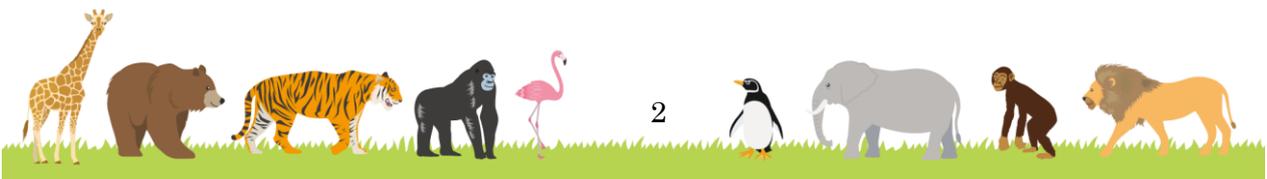
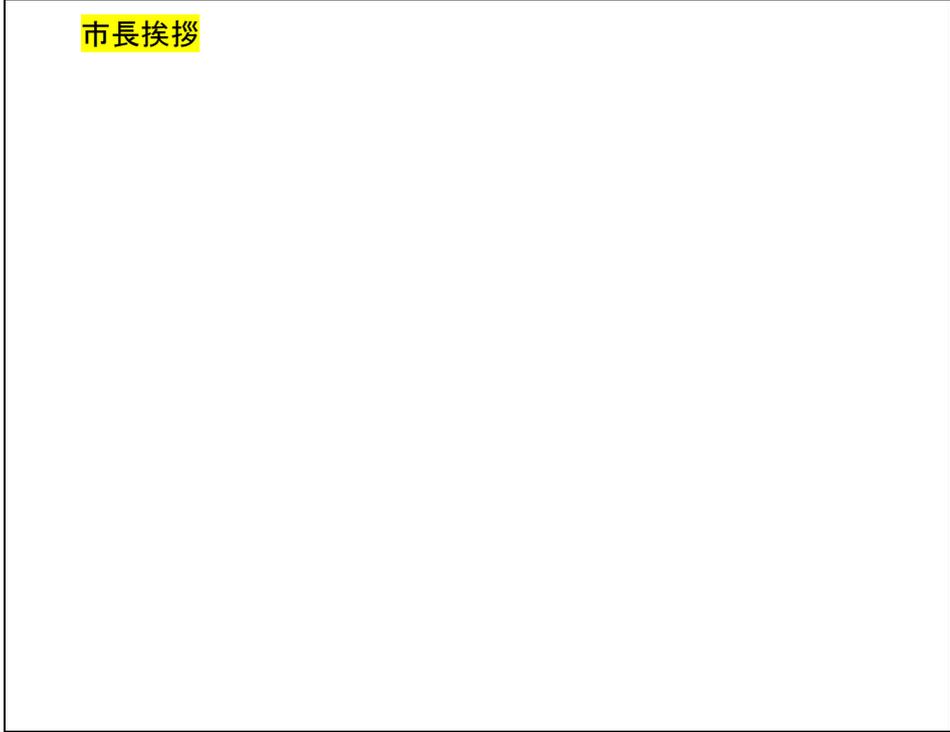
新たな「京都市動物園構想」冊子（素案）

H31/2/26時点

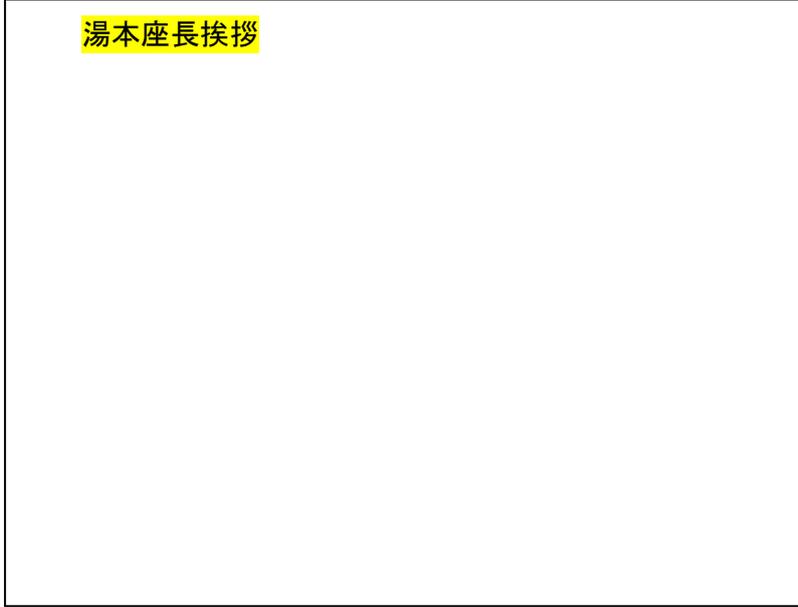




市長挨拶



湯本座長挨拶



## 新たな「京都市動物園構想」目次

### 1 京都市動物園の現状

(1) 共汗でつくる新「京都市動物園構想」(現構想)に基づく整備の効果

### 2 京都市動物園の役割と更なる進化

(1) 動物園の普遍的な役割と京都市動物園の役割

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 1：種の保存・環境保全拠点の役割 | 2：研究機関の役割       |
| 3：教育機関の役割        | 4：レクリエーション施設の役割 |

(2) 京都市動物園の更なる発展

- 「いのちをつなぎ、いのちが輝く動物園」となるために
- 「研究する動物園」として発展するために
- 「楽しく学べる動物園」となるために
- 「多くの人が集う動物園」となるために
- 「近くて楽しい動物園」として進化するために

### 3 京都市動物園が将来にわたって目指す方向性と取組

(1) 京都市動物園理念

(2) 5つの柱と27の施策

- 柱① 生物多様性の保全に力強く貢献し日本をリードする動物園
- 柱② 野生動物の行動や生態、福祉を研究する世界水準の動物園
- 柱③ 文化教育施設として日本国内のオンリーワンを目指す動物園
- 柱④ 多くの人が集い、多くの学びを広げる動物園
- 柱⑤ 「近くて楽しい動物園」の更なる進化

(3) 5つの柱と27の施策の戦略的な推進

#### 資料編

・現構想の概要





1

# 京都市動物園の現状



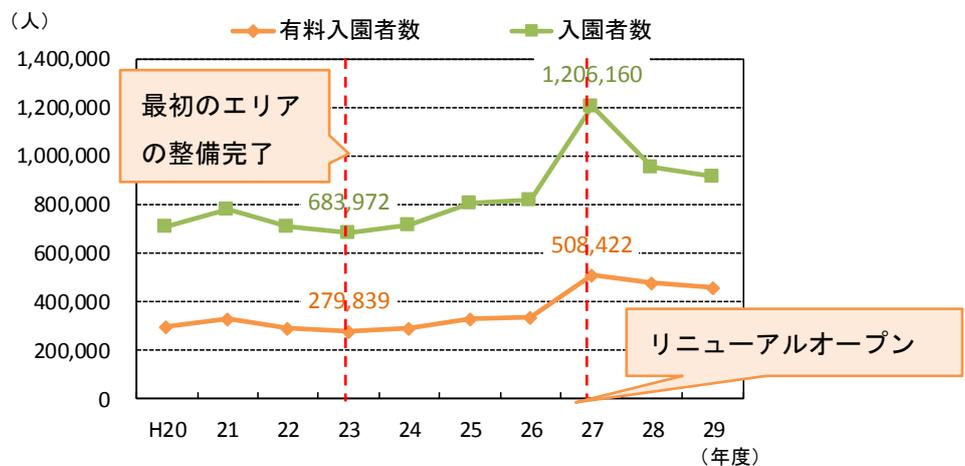
## (1) 共汗でつくる新「京都市動物園構想」(現構想)に基づく整備の効果

### 現構想に基づく整備の効果－1：利用者の増加

#### ○入園者数の増加(特に有料入園者数)

- ・最初のエリアの整備が完了した平成23(2011)年度以降右肩上がり(リニューアルオープンした平成27(2015)年度は前年度比5割増)。
- ・有料入園者：平成27(2015)年度以降400千人を上回る(+100千人程度)。

#### ■入園者数の推移

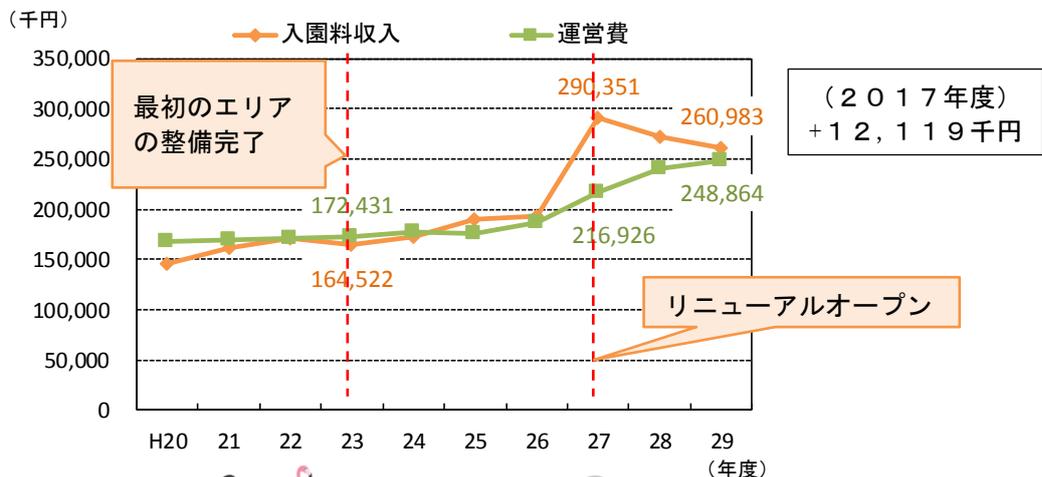


### 現構想に基づく整備の効果－2：収益の増加

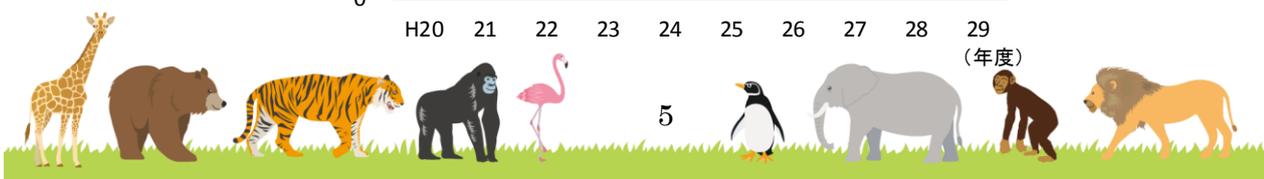
#### ○収益(入園料収入)の増加

- ・最初のエリアの整備が完了した平成23(2011)年度以降右肩上がり(リニューアルオープンした平成27(2015)年度は前年度比5割増)。
- ・入園者数が落ち着いた平成29(2017)年度も運営費の増加分を上回り、黒字収支。

#### ■入園料収入及び運営費の推移



(2017年度)  
+12,119千円



## 現構想に基づく整備の効果－3：教育効果

### ○中学生以下の団体入園者数の増加

- ・平成26(2014)年度に対して平成29(2017)年度は保育園、幼稚園、小学校、中学校全てにおいて15%以上増加（特に小学校は右肩上がり）。

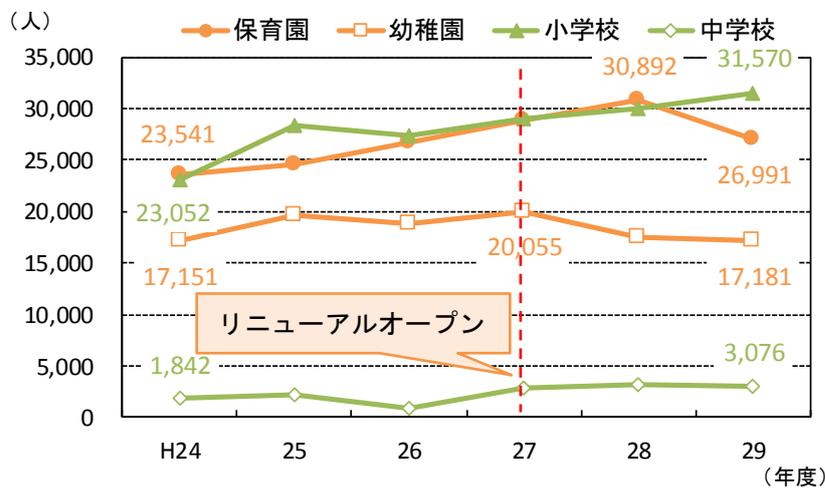
### ○サマースクールをはじめとする各種教育プログラムの充実

- ・小学校から大学生までを対象に、サマースクール、実習生の受入など、様々な教育プログラムを実施。

### ○教育機関や各種団体向けの講演回数も大幅に増加

- ・平成25(2013)年度以降大幅に増加（平成27(2015)年度以降180回以上）。

### ■中学生以下の団体入園者数の推移



### ■講演実績

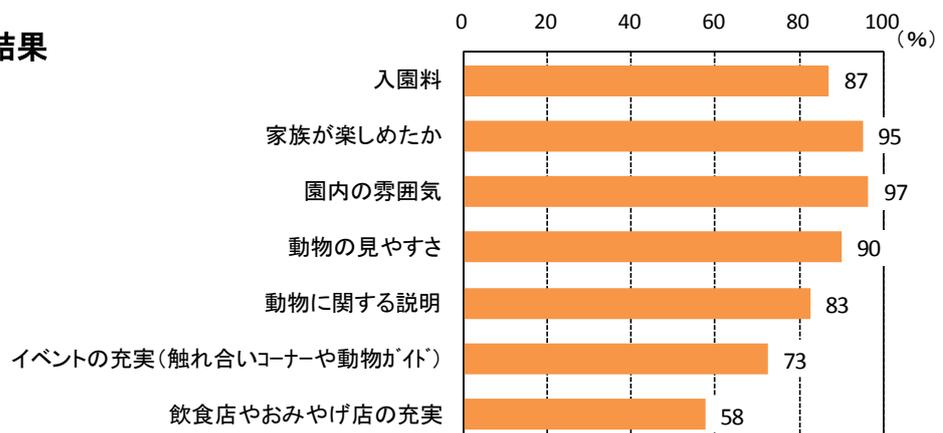
年度	回数
H24	71
25	119
26	131
27	184
28	196
29	188

## 現構想に基づく整備の効果－4：来園者の高い満足度

### ○来園者からの高い評価

- ・来園者アンケート（平成30(2018)年度実施）から見える高い満足度  
動物の見やすさ：90%，動物に関する説明：83%，ふれあいやイベントの充実：73%

### ■来園者アンケートの結果



## 現構想に基づく整備の効果－５：共汗する参加者の広がり

### ○ボランティア

- ・京都市動物園ボランティアーズは昭和55（1980）年に設立。毎年約50名の方々が「おとぎの国」で動物との触れ合いをお手伝い。

### ○サポーター制度

- ・「商品提携サポーター制度」「エサ代サポーター制度」「看板広告サポーター制度」「提案型サポーター制度」を通じて、市民や事業者からの支援。

### ○動物園の取組への参画

- ・外部団体や機関との連携、各種イベントやプロジェクトへの参加を通じて、市民をはじめNPO団体や学識者等の動物園の取組への参加者が増加。

## ■エサ代サポーターの実績

例：10万円以上の御寄付（特典として動物舎へプレートを掲示している）

年度	H26	H27	H28	H29	H30
プレート掲示件数	7	17	21	25	30

※平成26(2014)年度は6月以降の実績

※平成30(2018)年度は平成31(2019)年1月現在の実績

## 現構想に基づく整備の効果－６：研究機関としての役割・機能強化

### ○京都大学との連携(平成20(2008)年4月)

- ・京都大学との間で「野生動物の保全に関する教育・研究の連携協定」を締結。京都大学野生動物研究センターの教員が国内で初めて動物園に常駐。

### ○生き物・学び・研究センターの設置(平成25(2013)年4月)

- ・京都市動物園における学術研究と環境教育をより一層推進するために設置。「生き物について学ぶ」「生き物から学ぶ」「学びについて学ぶ」「学びから学ぶ」の4つの使命を掲げる。

### ○「学術研究機関」として文部科学省から指定(平成30(2018)年1月31日)

- ・文部科学大臣から研究機関として指定を受け、科学研究費補助金（以下、「科研費」とする）による助成を受けて研究を推進することが可能となった。





## 2

# 京都市動物園の役割と更なる進化



### (1) 動物園の普遍的な役割と京都市動物園の役割

本園も加盟しているJAZA（(公社)日本動物園水族館協会）は、「種の保存」「教育・環境教育」「調査・研究」「レクリエーション」の4つの役割を目標にしています。

本園では、本園の特徴である「研究」を特に重要な役割として捉え、その成果を「種の保存・環境保全」と「教育」に反映させて、動物の飼育と繁殖、情報発信等に取り組むとともに、「学び」の中にこそ「楽しみ」があるという考えに立ち、楽しみながら学べる「レクリエーション」を市民に提供していきます。

#### 1 種の保存・ 環境保全の 拠点の役割

本園では、国内で唯一の三世代累代繁殖に成功しているニシゴリラ、ゾウの繁殖プロジェクトやグレビーシマウマの繁殖等、国際的な取組を行うとともに、国内での絶滅が危惧されるツシマヤマネコの保護増殖事業にも取り組み、国内でも有数の種の保存拠点になっています。今後も、様々な種の繁殖に取り組むとともに、京都議定書のまちから野生動物の暮らす環境の保全についても発信していきます。

#### 2 研究機関の 役割

本園は、平成20（2008）年に京都大学との協定締結により、国内で初めて大学教員が常駐し、各種調査研究を実施してきました。そして、平成25（2013）年に研究と教育を専門で担う「生き物・学び・研究センター」を全国に先駆けて設置しました。平成30（2018）年には、文部科学省から「学術研究機関」として指定を受けています。今後も、全国でも先進的な施設として、様々な研究機関等と連携し、種の保存や動物福祉に関する研究等を推進していきます。

#### 3 教育機関の 役割

本園では、年間約200件の講演や博物館・獣医学の実習、体験学習を市内外の教育機関から受け入れています。また、園内での動物ガイドやふれあいイベントを通して、動物のことを多くの方々に知っていただく機会を設けています。今後も、各種イベントの実施や実習などの受け入れを行うとともに、研究機関としての研究成果を来園者にわかりやすく伝えることによって、教育機関としての役割も強化していきます。

#### 4 レクリエー ション施設 の役割

「学び」の中にこそ「楽しみ」があるという考え方に立ち、生物多様性の重要性や環境教育・研究成果を市民にわかりやすく伝えることを通じて、「学ぶ楽しみ」を提供します。さらに、本園は、平安神宮や京都市美術館、琵琶湖疏水等とともに国の重要文化的景観に指定された「京都岡崎の文化的景観」を構成する施設で、市内でも有数の文化芸術面の「学び」もあるエリアとして、多くの来園者の方々に楽しんでいただける動物園づくりを行っていきます。



## (2) 京都市動物園の更なる発展

本園では、「いのちをつなぎ、いのちが輝く動物園」「研究する動物園」「楽しく学べる動物園」「多くの人が集う動物園」「近くて楽しい動物園」になるために、以下の課題に取り組んでいきます。

### 「いのちをつなぎ、いのちが輝く動物園」になるために

- ・絶滅危惧種（ニシゴリラ、アジアゾウ、グレビーシマウマ、イチモンジタナゴ、ツシマヤマネコなど）の域外保全から域内保全への展開を推進する必要がある。
- ・絶滅危惧種の繁殖の推進のために、繁殖施設整備について検討の必要がある。
- ・動物福祉に配慮した飼育環境の充実、とりわけ、動物福祉の観点から課題のあるサルワールド（類人猿舎及びサル島）の再整備が必要である。
- ・国際的な枠組みの中で中長期的な動物種の飼育展示計画を検討し、実現に向けた取組が必要である。（Species 360への加入など）

### 「研究する動物園」として発展するために

- ・動物の学びから人間社会について学ぶという観点を取り入れた研究を進める必要がある。
- ・京都大学をはじめとする他研究機関と連携した研究により、動物の知性や生態の理解を進め、動物の飼育・繁殖・福祉に繋げる必要がある。
- ・動物園の研究成果を市民に分かりやすく発信し、動物園ならではの研究について学んでもらうことが必要である。

### 「楽しく学べる動物園」となるために

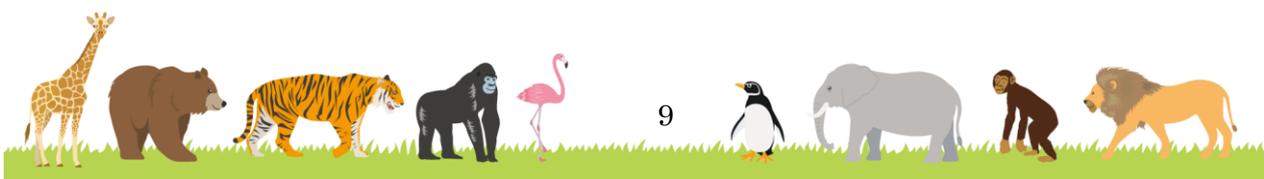
- ・SDGsの取組など、身近な環境から地球レベルの環境問題に向き合う機会となる環境教育施設としての機能・コンテンツの充実が必要である。
- ・すべての世代に対応した生涯学習施設としての機能・コンテンツの充実が必要である。

### 「多くの人が集う動物園」となるために

- ・国際文化観光都市・京都に立地する動物園として、観光客の多様化、インバウンドに対応した施設、展示の充実・配慮が必要である。

### 「近くて楽しい動物園」として進化するために

- ・現代的な展示手法や動物福祉の考え方を積極的に取り入れた飼育、展示施設の充実を図る必要がある。
- ・施設の長寿命化（計画修繕）の実施や中長期的な目線で施設整備を検討することが必要である。
- ・様々な年代の方にお越しいただけるように、ユニバーサルデザイン化を進めることが必要である





# 京都市動物園が将来にわたって 目指す方向性と取組



## (1) 京都市動物園理念

京都市の最上位の都市理念である「世界文化自由都市宣言」の下、現代の動物園としての役割を果たすため、「京都市動物園理念」を以下のとおり定めます。

### 「京都市動物園理念」

動物園の役割は時代とともに変化してきました。地球規模での環境破壊が進むなか、いま、現代における新たな動物園像が求められています。人間もまた地球に生きる動物の一員であることを踏まえ、京都市動物園は、ヒトを含む全ての動物のいのちと暮らしに敬意を持って向き合い、市民の皆様とともに動物園文化の成長と発展に寄与することを目指します。

- ・京都市動物園は、絶滅の恐れのある動物種の繁殖に取組み、希少種のいのちをつなぎ、種の保存に寄与します。
- ・京都市動物園は、動物の福祉に配慮し、いのちを輝かせる飼育・展示を行います。
- ・京都市動物園は、野生動物の行動や生態、動物福祉などの研究を推進し、生物多様性の保全に寄与します。
- ・京都市動物園は、種の保存の取組みや研究の成果を生かし、幅広い年齢層を対象に環境教育を実践し、楽しい学びの場を提供します。
- ・京都市動物園は、安全で安心な動物園であり続けます。
- ・京都市動物園は、様々な市民・団体との共汗により、人と動物に係る文化を発信します。



(2) 5つの柱と27の施策 (☆は新構想から新たに追加した取組)

**柱1 生物多様性の保全に力強く貢献し日本をリードする動物園**

- 施策 1 持続可能な飼育展示・繁殖の推進
- 施策 2 国際的な希少種の域外保全の推進
- 施策 3 国内希少種の域外・域内保全の推進

**柱2 野生動物の行動や生態、福祉を研究する世界水準の動物園**

- 施策 4 希少種の保全や動物福祉の研究の推進 (☆)
- 施策 5 動物の子育て、競合、協調から人間・社会を学ぶ研究 (人間教育)の推進 (☆)
- 施策 6 遺伝子解析を駆使した繁殖・保全の推進 (☆)
- 施策 7 学術機関との連携による研究・教育普及活動の推進 (☆)
- 施策 8 動物福祉の研究の飼育環境・教育普及事業への活用 (☆)

**柱3 文化教育施設として日本国内のオンリーワンを目指す動物園**

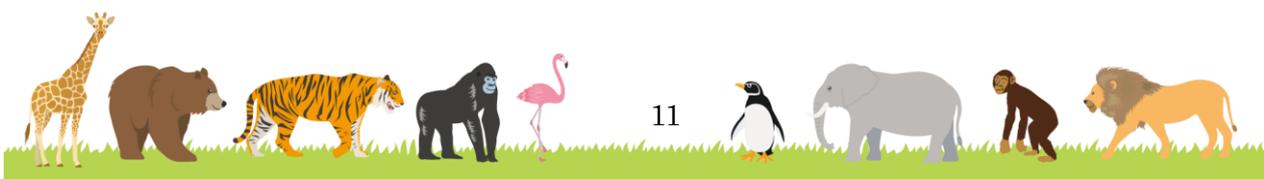
- 施策 9 動物園における環境教育の充実 (☆)
- 施策 10 「きょうと☆いのちかがやく博物館」事業 (4園館連携)の推進 (☆)
- 施策 11 京都府立植物園との政策と事業の融合・連携の推進 (☆)
- 施策 12 国内外の実習生の受入れによる教育の場の形成 (☆)
- 施策 13 京都市立芸術大学との連携など、文化を発信する場としての機能向上 (☆)
- 施策 14 世界に向けた研究成果や動物園の取組の発信 (☆)
- 施策 15 学校教育の素材としての動物園の活用の推進

**柱4 多くの人が集い、多くの学びを広げる動物園**

- 施策 16 岡崎地域活性化のための連携
- 施策 17 外国人観光客の誘致 (多言語化等) (☆)
- 施策 18 「環境都市・京都」の発信による教育旅行の誘致 (☆)
- 施策 19 効果的な広報活動の展開

**柱5 「近くて楽しい動物園」の更なる進化**

- 施策 20 展示の充実及び「エコ・Zoo」の推進
- 施策 21 ユニバーサルデザインの推進
- 施策 22 顧客満足度 (CS) の高いサービスの提供
- 施策 23 市民ボランティアとの協働 (☆)
- 施策 24 共汗に基づく市民及び企業の参加促進
- 施策 25 ハード整備の推進 (☆)
- 施策 26 動物舎の計画的な維持・管理充実 (☆)
- 施策 27 運営体制の充実及び更なる安全対策の実施 (☆)



## 構想の柱 1

# 生物多様性の保全に力強く貢献し日本をリードする動物園

### 施策 1 持続可能な飼育展示・繁殖の推進

環境エンリッチメント等、動物福祉に配慮した取組のより一層の強化及び飼育動物の心理的な幸福を目指し、中期的な飼育展示計画に基づいた飼育・繁殖に取り組む。

具体的なアクション

- ①中期飼育展示計画を策定し、持続可能な飼育展示・繁殖の推進
- ②動物福祉に配慮し、環境エンリッチメントを通じて飼育動物の幸福を再現
- ③環境省より認定動物園の指定を受け、動物移動事務を簡略化し、繁殖活動を推進

※ 環境エンリッチメント

動物福祉の立場から、飼育動物が心身ともに健康に暮らせるような飼育環境を豊かにする工夫や試みのこと。



(事例：キリン)



(事例：チンパンジー)

### 施策 2 国際的な希少種の域外保全の推進

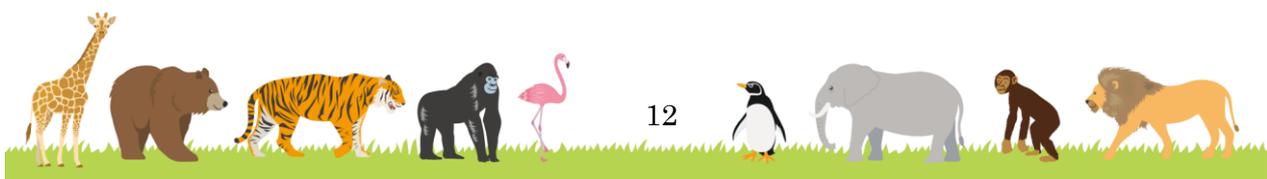
ラオスとの国際協力によりゾウの繁殖プロジェクトを推進するとともに、アジアゾウの繁殖拠点を目指す。また、ニシゴリラやグレビーシマウマなどの国際希少種は国際的な協力も得て飼育下繁殖を推進し国内の繁殖拠点として日本をリードする。

具体的なアクション

- ①グレビーシマウマの繁殖拠点としての施設充実化及び国内繁殖計画の推進
- ②ゾウの繁殖プロジェクトを推進し、域外保全に貢献
- ③ニシゴリラの飼育繁殖に関する実績を発信し、国際的な信頼の獲得



(事例：グレビーシマウマ)



現在の取組

①ニシゴリラ、チンパンジー、グレビーシマウマ、ヤブイヌの繁殖

・生息地の環境破壊と密猟等によりその数が減少し絶滅が危惧されている、ニシゴリラ、チンパンジー、グレビーシマウマ、ヤブイヌなどの繁殖・保護活動に取り組んでいる。

ニシゴリラ	チンパンジー	グレビーシマウマ	ヤブイヌ
ワシントン条約：付属書 I (絶滅の恐れが最も高く、特に嚴重に取引が規制されている種)			
絶滅寸前 (CR)	絶滅危惧種 (EN)	絶滅危惧種 (EN)	準絶滅危惧種 (NT)
4頭	6頭	3頭	8頭
昭和45(1970)年に日本で初めて繁殖に成功。3世代にわたる繁殖は国内では本園のみで、計5頭が誕生。国内最高の古賀賞を2度受賞。 JAZAの専門技術員に就任。	京都大学との連携に基づき平成21(2009)年にチンパンジー・サンクチュアリ宇土から4頭を導入し群れ飼育を開始した。平成25(2013)年と平成30(2018)年に赤ちゃんが誕生している。 JAZAの専門技術員に就任。	イギリス Marwell Wildlife の EEP 種別調整者とオランダの Safaripark Beekse Bergen との共同保護計画書に基づきオランダからメス1頭を無償で導入。順調に繁殖し、国内の個体群の遺伝的多様性に寄与。 JAZAの計画管理者に就任。	イギリス Port Lympne Reserve の EEP 種別調整者とデンマークの Jesperhus Jungle Zoo との共同保護計画書に基づきイギリスとデンマークから雌雄各1頭ずつを無償で導入。順調に繁殖し、国内の個体群の遺伝的多様性に寄与。
			

※ 古賀賞

希少動物の繁殖にとくに功績のあった動物園や水族館に対して贈られる賞。繁殖が難しく世界的にも重要な種の繁殖に成功した場合に与えられる栄誉にみちた国内最高の賞。日本動物園水族館協会の育ての親である、元上野動物園園長・古賀忠道博士の業績を記念して昭和61(1986)年に制定された。

※ JAZA

公益社団法人日本動物園水族館協会(略称:日動水)を指す



※ 専門技術員

日動水において、当該種の種別計画管理者が属する作業部会の構成員として、専門的立場から種管理計画の策定、実施について必要な助言および支援ならびに協力を行う。

※ 種別調整者

種別調整者種ごとのEEPのコーディネーター。EEPはヨーロッパ絶滅危惧種繁殖計画（European Endangered Species Programme）を指す。

※ 計画管理者

日動水において当該種の管理計画（JSMP）を策定し、協会管理計画を実施する。

②ゾウの繁殖プロジェクト

・「京都市動物園開園110周年」（平成25（2013）年）と「日本・ラオス」外交関係樹立60周年」（平成27（2015）年）を契機に、両国友好のシンボルとして平成26（2014）年度から継続して行われている。

- 1) ラオスからアジアゾウ4頭（オス1頭，メス3頭）の寄贈を受け、京都市動物園で飼育し、2国が協力して繁殖に取り組む。
- 2) ゾウの飼育・健康管理・繁殖技術の向上を図るため、身体や行動の成長発達、生理指標のモニタリングなど、繁殖に関連する基礎データを収集する。
- 3) 両国のプロジェクト関係者が互いに訪問し、プロジェクトの進捗を確認するとともに、両国においてプロジェクトの普及啓発を行う。

・京都信用金庫と洛中ロータリークラブからの寄付金によって支援され、推進されている。

H26 年度	ラオスから4頭の子ゾウが動物園に到着 講演会「子ゾウのふる里～ラオスと出会う～」等
H27 年度	子ゾウの調教を進める。 ラオスとの人材交流事業を開始する。
H28 年度	性ホルモン検査や給餌内容の栄養分析を行う。 サイヤブリー県野生ゾウ保護区を視察。
H29 年度	4頭のうち最年長個体が性成熟。 講演会「これであなともゾウ博士」等
H30 年度	47歳の美都と4頭の若ゾウとの同居を進める。 動物園で「ラオス展」等、普及啓発イベント。



### 施策 3 国内希少種の域外・域内保全の推進

国の天然記念物で国内希少野生動物種のツシマヤマネコや京都府の絶滅寸前種であるイチモンジタナゴについて、飼育下繁殖を推進し、国内及び地域の野生動物の保全につながる取組を強化する。



(上 事例：イチモンジタナゴ)

(左 事例：ツシマヤマネコ)

#### 具体的なアクション

- ①環境省が中心になって進めているツシマヤマネコの保護繁殖事業への参画（繁殖施設における飼育及び他園との連携による繁殖の取組）
- ②ツシマヤマネコの展示、「やまねこ博覧会」の開催やヤマネコ米の販売促進等によるツシマヤマネコの保全活動に対する市民理解の促進
- ③京都府下で唯一繁殖が確認されていた平安神宮と協力し、イチモンジタナゴの繁殖及び野生再導入に向けた取組の推進
- ④「守れ！イチモンジタナゴプロジェクト」の継続実施によるイチモンジタナゴの保全活動に対する市民参加の促進

#### ※ 国内希少野生動物種

平成5（1993）年4月に施行された「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（種の保存法）で国内に生息・生育する希少野生生物のうち、人為の影響により生息・生育状況に支障をきしているものの中から指定した種。

#### ※ 野生復帰

生息域外におかれた個体を自然の生息地（過去の生息地を含む）に戻し、定着させること。

#### ※ ヤマネコ米

対馬の佐護（さご）区で、生きものに関心のある農家の方を中心に「佐護ヤマネコ稲作研究会」を立ち上げ、多様な生物を育む水田を復活させてヤマネコも住める里づくりを進めるために、減農薬で栽培した米。



## 現在の取組

### ① ツシマヤマネコ保護増殖事業

- ・平成24(2012)年4月に、ツシマヤマネコ(国の天然記念物)の保護増殖事業(環境省)の普及啓発を目的として、ツシマヤマネコの展示を開始。
- ・平成26(2014)年5月に環境省と公益社団法人日本動物園水族館協会の間で締結した「生物多様性保全の推進に関する基本協定」に基づき、本園と東山動植物園(愛知県)が飼育下繁殖の第二拠点として位置付けられる。
- ・平成29(2017)年5月、本州で初となるツシマヤマネコの出産(2頭)もみられている(現在、4頭飼育)。

### ② やまねこ博覧会

- ・絶滅の危機に瀕しているツシマヤマネコの現状や、その保全に関する取組をより深く知ってもらうために、年に1回「やまねこ博覧会」を開催。講演会やブース出展を通してツシマヤマネコの保全活動の啓発を行うとともに、集客のためにエア遊具の設置、ツシマヤマネコの着ぐるみとの記念撮影などを実施している。



(ツシマヤマネコの展示の様子)



(やまねこ博覧会の様子)

### ③ 守れ！イチモンジタナゴプロジェクト

- ・平成28(2016)年度より、琵琶湖水系に生息しているイチモンジタナゴ(絶滅危惧ⅠA類)の飼育下繁殖及び野生への再導入を目指す。
- ・また多くの市民が訪れる動物園の特性を活かし、京都の身近で豊かな自然に関する啓発展示を行い、地域の自然環境保全へ貢献するために市民と共同で保全活動を行っている(生物多様性アクション大賞2016に入賞)。



(「守れ！イチモンジタナゴ！！プロジェクトプロジェクト」の様子)



傷付いた鳥獣が野生に戻るお手伝いをしています

**野生鳥獣救護事業**

- ・昭和50（1975）年から京都府と協力して、京都市域の傷ついた野生の鳥類と哺乳類の救護活動を行っています。京都市内で救護された野生の鳥類と哺乳類について、治療を行い、回復して自然復帰ができるようになると京都府の職員によって適切な場所に放しています。
- ・平成元（1989）年10月には野生鳥獣救護センターを開所。救護動物数に対して、救護センターが手狭であったため、平成25（2013）年に新しい救護センターを開設し、7月1日より現在の救護センターで救護事業を行っています。
- ・平成25（2013）年から有害鳥獣が除外され、件数は100件未満に減少しています。



（治療の様子）



（野鳥の放鳥）

京都市動物園の取組が評価されました！

平成18（2006）年度と平成21（2009）年度に「エンリッチメント大賞」を受賞しました！

- ・本園内で行っている環境エンリッチメントに関する取組をNPO法人「市民ZOOネットワーク」主催による「エンリッチメント大賞」に平成15（2003）年度から応募し、一次審査を6回通過、平成18（2006）年度（飼育担当者部門）及び平成21（2009）年度（チンパンジー舎）には大賞を受賞しました。



（次ページに続く）



**【受賞内容】**

<p>H18年度 【飼育担当者部門】 大賞</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひとつひとつの事例が興味深いエンリッチメントの取組であると同時に、3名が同じひとつの班に所属し、それぞれの担当動物に適した環境エンリッチメントを実施するとともに、互いに啓発し協力しているチームワークの良さが評価された。</li> </ul>
<p>H19年度 大賞 「チンパンジー舎」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成20(2008)年4月京都大学との間で「野生動物保全に関する教育及び研究の連携に関する協定書」を締結。その取組の第1弾として平成21(2009)年4月にリニューアルオープン。</li> <li>・木の上で暮らすチンパンジー本来の行動を引き出すために、9mの高さがある「プリズムタワー」を設置。また、人工アリ塚も設置し、自然の樹木を使って道具使用の様子が見られます。さらに学習室を増設し、チンパンジーのタッチモニターなどによる学習が行われている。</li> <li>・チンパンジーという種に特徴的な「知性」、「好奇心」、「学習意欲」、「社会性」を発揮できる施設であると評価された。</li> </ul>
<p>H19年度 (一次審査通過)</p>	<p>「ゴリラ舎」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タワー自体はそれほど珍しい工夫ではないが、実施前後の科学的観察による評価・点検をおこない、エンリッチメントを科学的に進めようとしていることが評価された。</li> </ul>
<p>H26年度 (一次審査通過)</p>	<p>「ゴリラのおうち～樹林のすみか～」 「フェネック舎」</p>
<p>H27年度 (一次審査通過)</p>	<p>「ゴリラ的な生活の実現」</p>
<p>H30年度 (一次審査通過)</p>	<p>「守れ！イチモンジタナゴプロジェクト」</p>

**生物多様性アクション大賞2016で入賞しました！**

- ・本園で実施する「守れ！イチモンジタナゴプロジェクト」が国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）主催による「生物多様性アクション大賞2016」で入賞しました。

**【「守れ！イチモンジタナゴ！！プロジェクト」の活動内容】**

<p>実施実績</p>	<p>平成28（2016）年度以降（今後も継続予定）</p>
<p>活動内容</p>	<p>「園内疏水めぐり」「ろ過について学び、底面ろ過装置を作る」「白川の生物調査」 「噴水池の整備（アオミドロ取り、ヨシの剪定、小川の掃除）、生物調査」 「外来種について学ぶ（噴水池のアメリカザリガニ駆除）等</p>



## 構想の柱 2

### 野生動物の行動や生態，福祉を研究する世界水準の動物園

#### ★ 施策 4 希少種の保全や動物福祉の研究の推進

ゾウやゴリラをはじめとした希少動物の保全及び動物福祉の研究を更に推進し，研究成果を日本国内だけでなく世界に向けて積極的に発信する。

具体的なアクション

- ①ゾウやゴリラをはじめとした絶滅が危惧される希少動物の繁殖と保全に関する研究のさらなる推進
- ②飼育管理技術向上のための動物福祉科学に関する研究のさらなる推進
- ③科学研究費補助金等の外部資金を活用した動物園の研究活動の推進



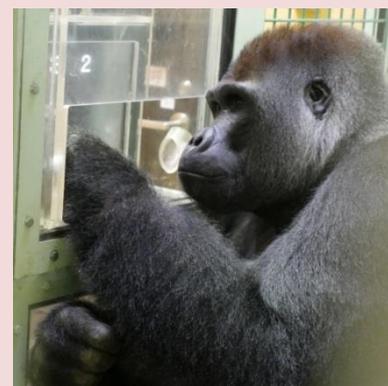
(事例：ニシゴリラの3世代繁殖)

#### ★ 施策 5 動物の子育て，競合，協調から人間・社会を学ぶ研究（人間教育）の推進

国内の動物園では唯一の取組である比較認知科学の研究は，類人猿からヒトに至る「こころの進化」を学ぶことができるものであり，その研究成果を来園者はもとより，各種メディアを通じて国内外に積極的に発信する。

具体的なアクション

- ①ヒトを含めた霊長類の「こころの進化」に関する比較認知科学的研究の推進
- ②研究者が来園者に向けて動物の身体や行動について解説するプログラム（6000万年サルの旅，サルのお勉強の話）
- ③霊長類の知性を体験することで実感してもらう体験イベントの実施



(事例：ゴリラの知性の研究)



## ★ 施策 6 遺伝子解析を駆使した繁殖・保全の推進

希少動物において、遺伝子解析を実施し、遺伝的多様性を把握し、集団内の遺伝的多様性が保持できる繁殖計画の立案を行う。また、野生集団の保全に有用な遺伝子解析手法を開発する。

(事例：検体資料の採取)



具体的なアクション

- ① 遺伝的多様性に関する研究成果を繁殖計画や環境保全活動に生かす
- ② 性判別や年齢推定など、種の保全に有用な遺伝子解析手法の開発・実践

## ★ 施策 7 学術機関との連携による研究・教育普及活動の推進

山階鳥類研究所や京都大学をはじめ他の研究機関と連携し、多様な観点から研究及び研究成果の還元による教育普及活動を進める。

具体的なアクション

- ① (公財) 山階鳥類研究所等、外部研究機関との研究協力体制の構築
- ② 京都大学との連携に基づいた研究・教育活動の推進
- ③ 「ゾウの繁殖プロジェクト」をはじめとする国際共同研究の推進



(事例：山階鳥類研究所との連携協定)

現在の取組

- ① 生き物・学び・研究センターの設立

・平成20(2008)年に京都大学と京都市の間で、「野生動物保全のための研究と教育に関する連携協定」が結ばれ、京都市動物園と京都大学野生動物研究センター(WRC)がその中核となって活動してきた。

・平成25(2013)年に、京都市動物園における学術研究と環境教育をより一層推進するために、新たに「生き物・学び・研究センター」が設けられた。

・平成29(2017)年には、京都大学から研究者を迎え研究体制の充実を図り、平成30(2018)年1月、公立動物園では国内初となる、科学研究費等補助金を申請できる「学術研究機関」として文部科学省から指定を受けた。



## ②研究機関と連携した教育普及イベントの開催

- ・(公財)山階鳥類研究所との連携記念企画展及びシンポジウム協定の締結を記念して、平成30(2018)年度には山階鳥類研究所を知っていただくためのポスター展示を行う企画展と、記念シンポジウム「鳥類系統学のいまーハヤブサはワルぶったインコなのかー」を実施した。



(記念シンポジウムの様子)

### ・「野生動物学のすすめ」

京都市と京都大学の「野生動物保全に関する教育及び研究の連携」を記念した「野生動物学のすすめ」を開催。

- 体験型学習プログラム(京都大学連携ワークショップ)
- 野生動物や地球環境保全をテーマとした講演会など。
- 関連NPOによるブース展示、野生動物写真展など



(京都大学 山極総長[中央左]と伊谷教授[同右])

## ★施策 8 動物福祉の研究の飼育環境・教育普及事業への活用

動物福祉に関する研究を飼育環境の改善や教育普及事業に反映する。

### 具体的なアクション

- ①動物の行動や生理学的指標を用いて飼育環境や環境エンリッチメントの客観的な評価を行う
- ②科学的な評価をもとにした、環境エンリッチメント計画の策定及び実施
- ③市民参加型の環境エンリッチメント体験イベントの実施



(事例：チンパンジーのエンリッチメント体験)

### 現在の取組

#### 市民参加型の環境エンリッチメント体験

- ・「トラのエンリッチメントにレッツトライ！」と題して、動物園でのトラに対する環境エンリッチメントの取組をブログとして紹介するほか、参加型の取組として来園者等と一緒に取組を行っている。

<p>トラのエンリッチメントにレッツトライ！</p>	<p>対象：小学生以上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野生のトラが狩りの時に行う行動を、京都市動物園のトラたちから引き出せるような工夫を一緒に準備。</li> <li>・ダンボールなどを使って肉を隠して、トラたちの生き生きとした行動を観察する。</li> </ul>	
----------------------------	--	--



**国内唯一の施設です！**

**学術研究と環境教育の拠点「生き物・学び・研究センター」**

・本園では、平成20(2008)年4月、京都大学との間で「野生動物の保全に関する教育・研究の連携協定」を締結し、平成25(2013)年4月、動物園内の研究・教育を統括する組織として、「生き物・学び・研究センター」を設置しました。

**【生き物・学び・研究センターの4つのミッション】**

○生き物について学ぶ	野生動物の行動や生理, ゲノムに関する基礎研究を行い, その成果を通して飼育管理方法の改善や繁殖に貢献することを目指す。
○生き物から学ぶ	本来の生息地において絶滅の危機に瀕している動物たちを通して, 地球環境や地球に暮らすすべての「いのち」の大切さを学べるようにする。
○学びについて学ぶ	小・中・高等学校, 大学教育への貢献を目指す。現在, 動物園の利用頻度が低いこれらの世代が利用する教育プログラムの開発, 教育の実践を行う。
○学びから学ぶ	生きている動物を写生できる場を提供してきた動物園として, 京都画壇に貢献してきた伝統と, 世界をリードしてきた京都大学の霊長類をはじめとする野生動物研究から, 「文理の知を超えた学び」の姿を学べる場を目指す

**【研究】**

京都市動物園は、平成30(2018)年1月に文部科学大臣から「学術研究機関」としての指定を受け、科学研究費補助金(科研費)の申請資格を得た。現在、生き物・学び・研究センターに所属する研究員が取得した科研費を活用して、比較認知科学、動物福祉科学、ゲノム科学等の多様な研究を行っている。また、大学やその他の研究機関の研究者との共同研究計画を推進している。

**【連携事業】**

京都大学、京都精華大学、および(公財)山階鳥類研究所との間に連携協定を締結し、共同研究の企画、普及啓発事業等での協力を行っている。また、京都府立植物園、京都水族館、京都市青少年科学センターの4者による包括交流連携協定を締結し、共同ワークショップなどを実施している。

**【国際関連事業】**

「ゾウの繁殖プロジェクト」をはじめとする海外の機関との共同研究プロジェクトを実施している。平成31(2019)年に京都大学との共催で「国際環境エンリッチメント会議」を開催する他、海外から研究者を招聘し、国際セミナーやシンポジウムを開催している。

**【教育・普及啓発事業】**

教育プログラムを整備し、小中高校および大学での学校教育課程における動物園の利用促進をはかる。動物園内外における教育講演等を積極的に実施し、生涯学習機関としての動物園の意義を高める。



### 構想の柱 3

## 文化教育施設として日本国内のオンリーワンを目指す動物園

### ★ 施策 9 動物園における環境教育の充実

「京都市生物多様性プラン」に掲げる生物多様性の啓発や京都議定書で定められた地球温暖化対策の理解を深めることはもとより、SDGs（持続可能な開発目標）の課題など、動物園に求められる教育のニーズが高まっていることを踏まえ、動物園における環境教育の充実を図る。そして、市民一人一人が「生物多様性」や「環境保全」を自分ごととして捉え、環境意識が向上する場となることを目指す。

#### 具体的なアクション

- ① 国際希少種、国内希少種の繁殖を進め、種の保存を通して生物多様性保全に寄与する。
- ② 生物多様性庁内会議に参加し、「京都市生物多様性プラン」の実行と普及啓発に努める
- ③ 京都精華大学との連携による、園内の資源を生かした普及啓発事業
- ④ NPO等外部団体との共同企画による環境教育事業の展開
- ⑤ 教育プログラムに基づいた、園内における環境教育の普及の促進



（事例：SDGsの17の目標）

### ★ 施策 10 「きょうと☆いのちかがやく博物館」事業（4園館連携）の推進

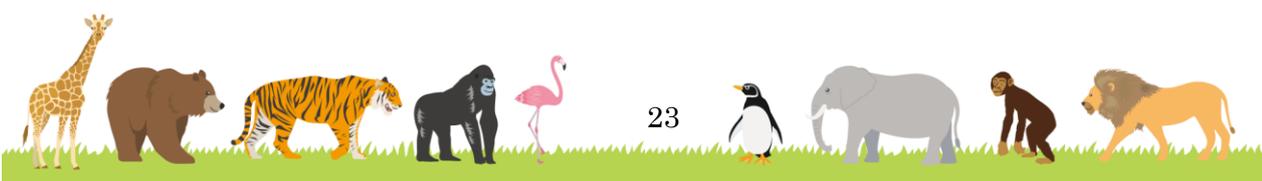
動物園、京都府立植物園、京都水族館、京都市青少年科学センターが連携する「きょうと☆いのちかがやく博物館」事業により、生物多様性を学ぶ機会を市民に広く提供する。

#### 具体的なアクション

- ① 連携する各園館で主催する普及啓発事業の発展・充実
- ② 京都市生物多様性プランの普及啓発
- ③ 4園館連携を基盤とした市内の科学系博物館との連携の推進



（事例：京都府立植物園でのワークショップ）



## 現在の取組

### ①「きょうと☆いのちかがやく博物館 4 園館包括交流連携事業」の実施

- ・京都市動物園・京都府立植物園・京都水族館の3園館が、「いのちかがやく」を共通のコンセプトに連携し、次世代に向けた京都の自然環境の継承及び体験・啓発等をハーモナイズ



アップさせ、地域や社会の活性化に一層貢献していくことを目的に、平成27(2015)年3月に「包括交流連携協定」を締結した。さらに、平成28(2016)年3月には、「京都市青少年科学センター」が加わり、4園館連携として発展させた。平成29(2017)年度から京都市環境政策局環境管理課も事業に加わっている。

- ・4園館のそれぞれが担当する普及啓発イベントに連携各園館スタッフが参加するほか、連携する園館の展示への協力を開始している。

共通コンセプト	「きょうと☆いのちかがやく博物館」
事業項目	1) かけがえのない生態系に関する事業連携 2) 次世代への京都の自然環境の継承及び体験・啓発 3) 幅広い情報発信と職員交流の推進

## ★ 施策 11 京都府立植物園との政策と事業の融合・連携の推進

府市連携の一環として、京都府立植物園と、政策と事業の融合・連携による取組として、新たな事業協力や共同での普及啓発活動を推進する。

### 具体的なアクション

- ① 共同シンポジウム等の開催を通じた生物多様性、環境保全の啓発推進
- ② 植物園由来の木材・草本を動物園展示に活用、動物の糞を原料とする肥料を植物園で活用するなどした、展示の連携。
- ③ 動物園・植物園で共同した教育観光やインバウンドの誘致を進める。



(事例：植物園由来の木材を活用した環境エンリッチメント)



## ★ 施策 1 2 国内外の実習生の受入れによる教育の場の形成

国際的協力の実践として、シドニー大学やエジンバラ大学などからの獣医学実習生の受け入れをはじめ、国内各地の大学から学芸員実習等の多様な実習生を積極的に受け入れ、国内外の教育の場としての動物園を目指す。

具体的なアクション

- ①シドニー大学やエジンバラ大学などの海外からの獣医学実習生への教育の提供
- ②京都大学との連携に基づく海外研修生の受入れ
- ③国内各地の大学から学芸員実習等の多様な実習生の積極的な受け入れ、教育の提供



(事例：京都大学の海外研修生をガイド)

現在の取組

実習生及び体験実習の受入れ

- ・大学生を対象とした様々な実習生の受入のほか、教育委員会からの依頼を受けて中学生の体験学習（生き方探求・チャレンジ体験）及び高校生の職場体験プログラム等を行っている。

## ★ 施策 1 3 京都市立芸術大学との連携など、文化を発信する場としての機能向上

京都市立芸術大学をはじめとする芸術系大学、その他の文化芸術団体等とも連携を図り、文化を発信する場としての動物園の機能を高める。

(事例：芸術団体との共同企画による展示)

具体的なアクション

- ①京都市立芸術大学、京都市美術館との連携（動物画の企画展の実施や製作など）
- ②芸術家グループや芸術系大学（嵯峨美術大学、京都精華大学、京都造形芸術大学など）との連携
- ③「KYOTO STEAM—世界文化交流—」において、アート・サイエンスのコラボレーションプログラムの実施
- ④音楽コンサート等のイベントの実施による文化に触れる場の創出



※ KYOTO STEAM—世界文化交流—

文化庁補助事業「文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業」を活用し、京都・日本を文化・芸術の交流のハブへと進化させていくための取組。「KYOTO CULTIVATES PROJECT」の理念を文化芸術の新たな可能性と価値を世界に問う新しい形態の「国際的な文化・芸術の祭典」。STEAMとは、Science（科学）、Technology（技術）、Engineering（工学）、Art（芸術）、Mathematics（数学）の略。



## ★ 施策 14 世界に向けた研究成果や動物園の取組の発信

国際環境エンリッチメント会議（ICEE）の京都大学との共同開催や世界博物館会議（ICOM）へ参画するほか、国際的な学術集会において研究成果の発表や京都市動物園の取組などを伝え、世界の舞台に飛躍する動物園を目指す。

### 具体的なアクション

- ①第14回国際環境エンリッチメント会議の開催（平成31（2019）年6月等、国際集会の企画・運営）
- ②国際霊長類学会、国際応用動物行動学会等、英語を公用語とする動物研究に関する国際会議への参加と発表
- ③WAZA総会への出席と世界の加盟園館との交流の推進

（事例：国際環境エンリッチメント会議のポスター）



### 現在の取組

- ①国際環境エンリッチメント会議の共催
  - ・平成31（2019）年に京都で開催される第14回国際環境エンリッチメント会議の運営に、京都大学・日本モンキーセンター・SHAPE-Japan とともに関わっている。
- ②WAZA（世界動物園水族館協会）への加盟
  - ・国際的に認められた動物園であることをPRし、希少動物の導入や持続可能な繁殖、教育・研究の取組を更に進めるため、平成30（2018）年5月にWAZAへ加盟した。
  - ・国内では、現在、京都市動物園のほか、（公社）日本動物園水族館協会、東京都恩賜上野動物園、東京都多摩動物公園、横浜市緑の協会、大阪市天王寺動物園、名古屋市東山動物園、ふくしま海洋科学館、千葉市動物公園の8団体が加盟。

### ※ WAZA（世界動物園水族館協会）

World Association of Zoos and Aquariums の略。1935年に設立した「世界動物園長連盟」を母体として発展し、平成12（2000）年に現在の「世界動物園水族館協会」となった。動物、種、生息環境の保全と持続可能性のために世界的に動物園と水族館の潜在的可能性を達成する。動物園と水族館の世界的な共同体として、コミュニケーション・プラットフォームとして機能する。



## 施策 15 学校教育の素材としての動物園の活用の推進

大学や教育委員会、環境教育団体等と連携し、学校教育の素材としての動物園の活用を推進する。

具体的なアクション

- ①教育プログラムに基づいた学校向け教育素材の提供（動物の生態や環境問題を伝えるコンテンツ等）
- ②「大学のまち京都」の特性を生かした、地域の自然や環境問題を幅広い世代に伝えていくことができる人材の育成



（事例：京都精華大学の環境教育活動の様子）

現在の取組

### ①講演の実施

- ・教育機関や各種団体向けに動物園や動物に関する講演を実施しているほか、各種教育資料の提供を行っている。
- ・また、閉園時間後に、正面エントランス1階の図書館カフェを利用して、参加者の皆様と様々な話題をお話するイベント「夜の図書館カフェDEトーク」も開催している。



レクチャールームでの講演



夜の図書館カフェ DE トーク

### ②サマースクール等の実施

- ・小学3年生から高校3年生を対象に、普段は体験できない、動物舎の清掃など動物たちの飼育体験とその生態について学ぶことができるイベントで、夏休み期間に開催。
- ・また、高校生以上を対象に、飼育体験（動物舎清掃や餌作りなどの体験）や、動物園について学ぶこと（動物園を知るための話、普段は入ることのできない施設の見学など）のできる「一日動物園体験」を開催している。



サマースクールの様子



一日動物園体験の様子



### ③なかよし教室

- ・「動物に触れることにより、命の大切さやあたたかさを感じる」、「動物を間近で観察し、触れることにより、動物についての知識を深める」ことを目的とした、団体向けのプログラム。
- ・おとぎの国のエリアで、テンジクネズミやウサギをなでたり、ヤギにエサやりをすることができる。年間約9,000人が利用している。



### ④絵画コンクールの実施

- ・夏休み期間中の小学生を対象に、園内の動物や風景を題材にした「小学生動物画コンクール」を開催している。授賞式の開催、入賞作品の展示等を行っている。

○題 材：京都市動物園内の動物又は風景

○応募資格：京都市内に在住又は市内小学校に在学する小学生



## 動物愛護の啓発も行っています！

### 動物愛護週間

- ・動物の愛護と適正な飼育及び保護について関心と理解を深め、動物愛護や保護の気風を高め、生命尊重や情操教育の高揚を図ることを目的とし、動物愛護週間を定めた「動物の愛護及び管理に関する法律」の趣旨に従い、(公社)京都市獣医師会が主催し、京都市動物園共催で実施した。



(京都市獣医師会イベントの様子)



(動物慰霊祭)



様々な枠組みで実習生を受け入れています

将来の担い手の教育の場を提供

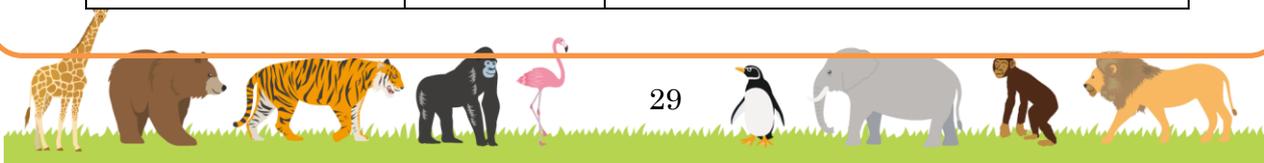
- ・本園では、獣医や学芸員を目指す大学生を実習生として受け入れています。英語での受け入れも可能という強みを生かし、海外の大学からの実習生を受け入れているのは、国内でも数少ない取組です。
- ・また、教育委員会からの依頼で、中高生の職業体験等も受け入れています。

【実習生の受入実績】

区分	対象	実習内容
 博物館実習	大学において博物館学講座の単位を取得又は取得予定者で、当該大学から依頼のあった方	・京都市動物園の概要と役割などについての概説と施設見学 ・飼育員の行う動物飼育業務についての実習 ・動物園で行っている調査研究・展示・資料保存などの各業務に関する講義・実践 ・企画・交流事業についての講義・実践など
  獣医実習	大学において獣医学課程を学ぶ者(4年生以上)で、当該大学から依頼のあった方  オーストラリア・シドニー大学	・野生動物のハンドリング及び検査・診療・解剖技術に関する講義および実践 ・京都市動物園の概要と役割などについての講義 ・動物園で行っている調査研究・展示・資料保存などの各業務に関する講義・実践など  ・平成26年度からオーストラリア・シドニー大学獣医学の実習受入施設として協力している。 ・受入実績:20名(うち1名はイギリス・エジンバラ大学)
 飼育実習	自然科学系の学科を専攻している専門学校生及び大学生	・動物飼育, 動物舎の整備・修繕, エンリッチメントの実践, 調査・研究, 広報・啓発活動など
 救護実習	自然科学系の学科を専攻あるいは卒業, 当該大学からの依頼あるいは卒業を証明できる方	・野生鳥獣救護センターにおける業務

【中高生の受入実績】

区分	対象	実習内容
中学生体験学習	中学生	・飼育体験や園内作業など ・調査・研究活動
高校生職場体験	高校生	・飼育員や獣医師など, 動物とかかわる仕事を目標としている高校生の職場体験プログラム



学校や市民の皆様にご提供できます！

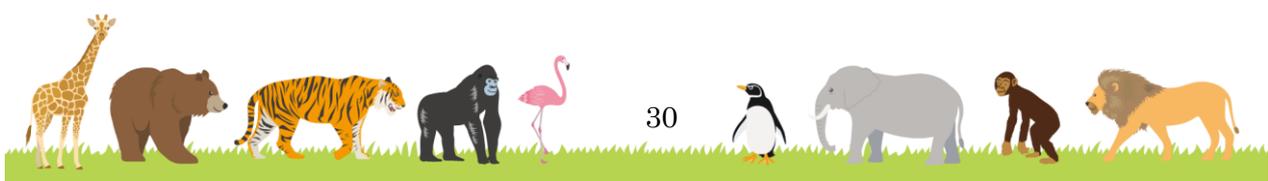
知的好奇心を満たす学びを提供

- ・本園では、教育機関や各種団体向けに動物園や動物に関する講演を実施しており、近年では年間200回程度と教育機関としての役割も果たしています。
- ・閉園時間後に、正面エントランス1階の図書館カフェに各方面の専門家を招き、参加者の皆様と気軽な雰囲気の中でお話するイベント「夜の図書館カフェDEトーク」も開催しています。最先端の科学から、ベテラン職員による昔動物園の思い出、動物にまつわる芸術作品など、多彩なテーマを取扱っています。

【提供可能な講演や教材】

手法	テーマ	タイトル
講義	動物の保全	動物たちの現状
		動物園の仕事
	動物園の取り組み	動物園で学ぶSDGs
		動物園の役割
		動物園の見どころ
		動物園研究
		ツシマヤマメコノ保護繁殖事業
		動物の生態
	動物の暮らし	動物の暮らし
		日本の自然と動物
	動物の体とくらし	動物の赤ちゃん
		動物のうんち
		動物の骨格
	命のつながり	ゾウの肥料
動物園と疎水の関係		
園内ガイド	動物園の取り組み	動物園の見どころ
		動物園研究
	命のつながり	ゾウの肥料
		動物園と疎水の関係
講義実習	動物の体とくらし	骨格標本を組み立ててみよう
資料提供	—	小学校2年生国語「どうぶつ園のじゅうい」京都市動物園編
		生活科学学習支援「どうぶつのうんち」
		英語学習支援
		クイズ 等

(次ページに続く)



【夜の図書館カフェ DE トークの開催（平成30（2018）年度実績から抜粋）】

テーマ	ゲスト
不便でよかったことありませんか？	京都大学学際融合教育研究推進センター/ デザイン学ユニット特定教授・不利益システム研究所所長 川上浩司
キリンの子育て：ヒトと似ているようでちょっと違う	京都大学野生動物研究センター 大学院生 斎藤美保
パネルディスカッション「美術作品に見る動物芸術作品」	観〇光展に出展中のアーティスト （池田泰子, 宇野和幸, 大沼憲昭, 菅原布寿史, 長谷川一郎）
離乳期の野生チンパンジーは何を食べる？：赤ちゃん目線で捉える人類の進化	総合地球学研究所研究員 松本卓也
野生オスゴリラの一生	京都大学理学研究科大学院生 坪川桂子
デカイ顔した森の人, オランウータンのふしぎな魅力	京都大学理学研究科大学院生 田島知之



## 構想の柱 4

### 多くの人が集い、多くの学びを広げる動物園

#### 施策 16 岡崎地域活性化のための連携

京都市における文化・観光拠点の1つである岡崎公園に立地している地理的環境を活かし、岡崎地域の他施設（京都市美術館、琵琶湖疏水記念館等）、京都市の関係部署（交通局、観光MICE推進室等）と連携し、岡崎地域の活性化を図るとともに、来園者の増加に繋がる取組を進める。

具体的なアクション

- ① 岡崎ハレ舞台等のイベントを通じた周辺施設との連携
- ② 「京都岡崎コンシェルジュ」等のポータルサイトや「岡崎手帖」等のガイドブックを活用した情報発信力の強化
- ③ 法勝寺の造営跡や琵琶湖疏水の活用についての情報発信
- ④ 「京都岡崎の重要文化的景観」を構成する施設として、東山を借景とした花や緑が美しく映える自然環境を活かした、四季を身近に感じることのできる空間づくりの促進



（事例：岡崎の魅力を伝えるミニツアー）



（事例：夜間開園）

#### ★ 施策 17 外国人観光客の誘致（多言語化等）

国際文化観光都市として、園内の動物説明板などの多言語化を図り、観光客・インバウンドによる海外からの来園者を積極的に誘致する。特に、アジア圏の訪日観光旅行者が多いことから、アジア圏の言語の翻訳に重点を置く。

具体的なアクション

- ① 動物説明板の多言語化の促進
- ② インバウンド向けの観光雑誌への情報掲載



（事例：中国語パンフレット）



## ★ 施策 18 「環境都市・京都」の発信による教育旅行の誘致

生物多様性や地球環境の保全などの環境教育に力を入れ、「環境都市・京都」のシンボル施設として定着させ、訪日観光旅行者や教育旅行（修学旅行など）の誘致を図る。



（事例：研修旅行で訪れた高校生）

具体的なアクション

- ①「環境都市・京都」の取組を発信できるコンテンツの作成
- ②全国各地の教育機関への本園の取組みの周知

## 施策 19 効果的な広報活動の展開

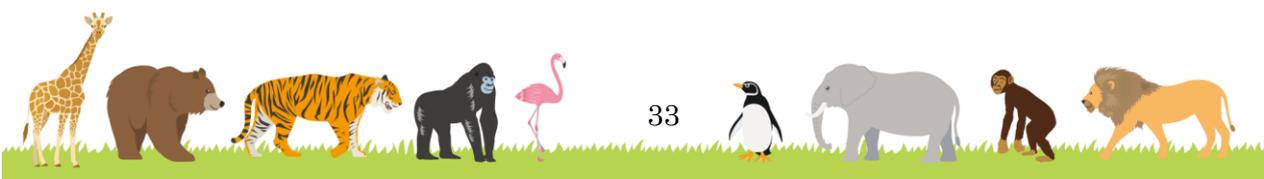
動物園に関する様々な情報を、多くの方々に分かりやすく伝えるため、「動物園だより」や「Zoo News」をはじめとする各種印刷物や、テレビ、新聞、SNS、HPなどの広報媒体を有効に活用し、効果的な広報活動を展開する。

具体的なアクション

- ①時代に即した広報媒体（twitter, Facebook, Instagram 等の SNS）の積極的な活用
- ②広報効果の大きい広報媒体（テレビ、新聞）への細やかな情報提供
- ③PTA フェスティバルなど、地域のイベントへの出展等、積極的な周知活動



（事例：動物園 Facebook ページより）



## 構想の柱5

# 「近くて楽しい動物園」の更なる進化

### 施策 20 展示の充実及び「エコ・Zoo」の推進

現代的な展示技術の導入によって、魅力ある展示を目指す。また、太陽光発電など自然エネルギーを活用し、環境に配慮した「エコ・Zoo」の取組を更に進める。



(事例：エネルギー管理システム)

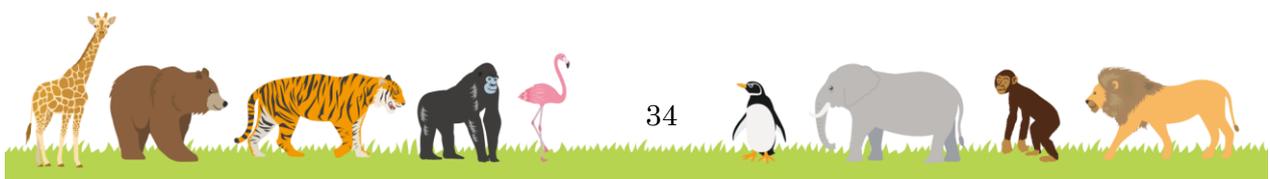
#### 具体的なアクション

- ①現代的な展示技術（生態展示，行動展示等）の導入
- ②自然エネルギー設備の導入促進

#### 現在の取組

##### エコ・Zooの取組

- ・スマートシティ京都プロジェクトの一環として、岡崎地域全体でのエネルギーとエコのショーケース化に取り組んでおり、その1拠点である京都市動物園では、「エコ・Zoo」の実現に向けた様々な環境に配慮した取組を行っている。



## 施策 2 1 ユニバーサルデザインの推進

障害者、小さな子ども連れの家族、高齢者等の特に配慮が必要な来園者が楽しめるよう、ユニバーサルデザインを推進する。

具体的なアクション

- ①園内の通路・施設・サインなどのユニバーサルデザイン化の促進
- ②ベンチやパーゴラなどの休憩施設の充実整備と適正な維持管理充実の実施
- ③園内の美化を徹底するとともに、ホスピタリティ溢れる空間づくりの実施



(事例：点字ブロックとスロープ)

## 施策 2 2 顧客満足度（CS）の高いサービスの提供

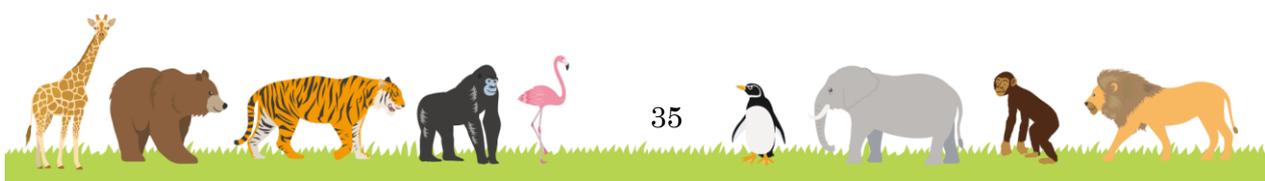
「レストラン」や「ショップ」で、入園者の思い出に残るような「食べる楽しみ」、「買う楽しみ」を大切にしたい。顧客満足度（CS）の高い施設づくりやイベント運営を進める。

具体的なアクション

- ①園者のニーズを捉えたメニュー、グッズの充実
- ②京都市動物園オリジナルグッズの販売
- ③大人も楽しめるイベント（園長さんとお散歩、プレミアムフライデー in Zoo等）の継続



(事例：園内ショップのグッズ)



## 施策 23 市民ボランティアとの協働

動物園ボランティアーズをパートナーとして、おとぎの国運営の充実に努めるとともに、動物園のガイドを行う「ガイドボランティア」等、市民ボランティアの活動範囲を拡大する。また、学生のまち京都の特長を活かし、京都外国語大学と連携し、多言語ガイドを担う学生のボランティアを積極的に活用し、市民とともに育む動物園を目指す。



(事例：ボランティアーズの活動)

### 具体的なアクション

- ①動物園ボランティアーズの更なる育成・登録促進
- ②ガイドボランティアや多言語ガイドを担う学生ボランティアの設置

### 現在の取組

#### 京都市動物園ボランティアーズ

・「おとぎの国」を拠点として活動する「京都市動物園ボランティアーズ」が昭和56（1981）年に発足し、現在に至るまで活動を継続している。学生から会社員、主婦と幅広い年代や職業の約50名が、土日を中心に楽しく活動している。

#### ○活動目的：

園の職員と協力してふれあいをサポートすることで、来園者笑顔で動物と接していただき、感動したり新たな発見をして帰っていただくために活動。

#### ○主な活動内容：

①ふれあいの お手伝い	ウサギ、テンジクネズミの 抱っこのお手伝い	来園者の方に安全にふれあいをしてもらうために、ウサギやテンジクネズミの安全な抱き方のアドバイスや抱っこの補助
	おとぎの国の動物ガイド	来園者に楽しんでいただけるように、おとぎの国にいる動物（ヤギ、ヒツジ、ミニブタなど）の説明
②その他	動物のお話の紙芝居や、動物の頭骨を使った説明（草食、雑食、肉食の違いなど）など	



## 施策 24 共汗に基づく市民及び企業の参加促進

市民や企業から御支援いただくサポーター制度や市民参加型のイベントの充実など、御支援のニーズを的確に捉え、市民及び企業との協働による運営を目指す。

具体的なアクション

- ①市民によるエサ代サポーターの参加促進
- ②看板広告サポーターやホームページのバナー広告の普及促進、商品提携や提案型サポーター制度への参加促進により、民間企業の資金やノウハウの導入促進
- ③「ゴリラのお庭に木を植えよう！」等のイベントを通じた動物園運営に対する市民参加の促進



(事例：サポーター企業向け報告会)

## 施策 25 ハード整備の推進

動物福祉の観点から課題のある「サルワールド」(サル島及び類人猿舎)をはじめとした園内獣舎の整備の検討を進める。整備に当たっては、周囲の動物舎との調和や、教育・研究機関としての機能拡充を考慮する。

具体的なアクション

- ①動物福祉に配慮した園内獣舎の整備の検討
- ②教育・研究機関としてハード及びソフト両面からの機能拡充



(事例：サル島)

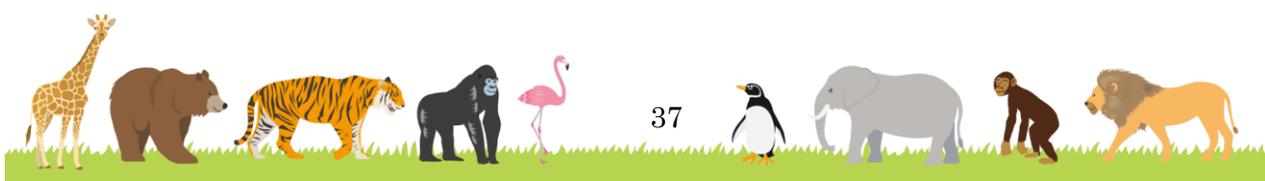
## ★ 施策 26 動物舎の計画的な維持・管理充実

動物舎に対して必要な修繕を計画的に施し、動物福祉に配慮した改修や施設の長寿命化を図る。また、園内景観の重要な要素である植栽の管理についても、維持・管理充実を図る。

具体的なアクション

- ①動物舎の修繕計画の作成
- ②園内の草花や樹木の充実整備と育成管理に努める。
- ③毎月1回の定期パトロール等、予防保全型の維持・管理の実施

(事例：花の植替え作業)



## ★ 施策 27 運営体制の充実及び更なる安全対策の実施

施策を進めるために必要な体制を整備し、効果的で効率的な業務を進められる職場環境づくりに努める。また、施策を展開するために、増客の取組やイベントの有料化等、増収に努め、必要な財源を確保するとともに、必要な経費についても適宜点検し、経営の視点を取り入れながら、運営体制を充実させる。また、定期的に施設の点検を行い、来園者と職員等の安全確保に努める。

### 具体的なアクション

- ①本構想を推進するための動物園の運営体制の充実・職場環境づくり
- ②有料イベントの企画検討，実施
- ③必要経費の点検と経費削減の推進
- ④安全対策のための動物舎等の施設の定期点検等の実施



(事例：動物脱出対応訓練の様子)

### 現在の取組

#### 安全対策

- ・平成20（2008）年6月に発生した飼育員死亡事故を教訓に、安全管理担当者を受け、職員の安全対策を進めている。また、毎月、安全衛生委員会を開催し、情報共有を行っている。
- ・大型動物の移動の際、必ず係長級以上の職員が付き添うこととしている（ダブルチェックの徹底）
- ・年2回、動物舎等の施設の定期点検等の実施
- ・年1回、動物脱出対応訓練の実施。危険動物の脱出事故という緊急事態を想定し、被害の拡大を防ぎ、来園者及び地域住民の安全を確保することを目的としている。

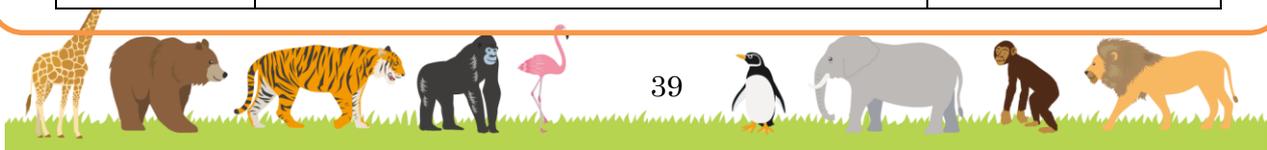


京都市動物園では様々なイベントを開催しています！

知的好奇心を満たす学びを提供

- ・本園では、様々なイベントを開催しています。
- ・動物園は、動物を通して、「学び」の中にこそある「楽しみ」を皆様に提供できるようなイベントをこれからも開催していきます。

イベント名	内 容	
どうぶつのお宅拝見！	キリンやゾウなど、普段は入れない動物の寝室をのぞいてみるができる。	
飼育員のお話	毎日お世話をしている飼育員だからこそ知っている動物たちの裏話などが聞ける。	
獣医が行く！	具合が悪い時には動物たちの治療をしたりしてくれる獣医から、動物の話や苦労話など、様々な話が聞ける。	
サルのお勉強の話	生き物・学び・研究センター職員から、チンパンジー、シロテテナガザル、マンドリル、ニシゴリラを対象とした、タッチモニターを使った数字の系列を学習する「お勉強の時間」の取組などの話が聞ける。	
6000万年サルの旅	霊長類の進化や生態、認知能力についての研究成果を解説するイベント	
ゾウ温泉	「ひかり・みず・みどりの熱帯動物館」のボイラーで沸かしたお湯をゾウのプールに給湯し、プールでゾウが水浴びを楽しむ様子を見ることができる。	
園長さんとお散歩	園長が動物や動物園の取組などを解説しながら楽しく案内する、大人が楽しめる動物園ツアー。	
プレミアムフライデー in Zoo	野生動物や動物園の魅力を伝える講演、夜の動物園ガイドツアー、動物園職員と交流を図りながら、食事を楽しむスペシャルイベント。	



### (3) 5つの柱と27の施策の戦略的な推進

京都市動物園の役割や施策ごとに求められる、「機能」や「事業」が個々に取組まれるだけでなく、それぞれの関係性を考慮し、相乗効果を生み出すような取組みとすることが重要です。

そのような役割や施策の関係性に基づき、必要な「機能」や取組むべき「事業」を検討することによって、SDGs実現への寄与を目指すとともに、「京都市動物園理念」の実現に向け、戦略的に施策を展開する。



図：新たな「京都市動物園構想」5つの柱と27の施策の戦略的な推進

#### 【図の解説】

##### ① 柱2⇒柱1, 柱3

まず、上段中央の【えんじ色】の柱2に掲げる、本園の一番の特徴である研究を積極的に進めます。そして、それによって得た研究成果を、上段左側の【黄緑色】の柱1に掲げる生物多様性の保全、上段右側の【水色】の柱3に掲げる環境教育をはじめとした学びの提供に活かしていきます。

##### ② 柱1, 柱3⇒柱2

柱1からは生物多様性の保全を通じた研究の推進、柱3からは研究への市民の理解と支持を得ることによって、柱2の本園における研究をより一層進めていくことができます。



### ③ 柱1, 柱2, 柱3⇒柱4

柱2の研究を軸に、柱1の生物多様性の保全と柱3の学びの提供が促進されます。これら3つの柱が三位一体となって施策を進めることによって、動物の生態や環境問題について楽しく学べるコンテンツやプログラムの作成を進めます。

更に、中ほどに【青色】で記載しております、府立植物園と政策と事業をともに進め、府立植物園に京都水族館や青少年科学センターも加えた4園館連携を推し進めることによって、動物園において4園館の魅力を発信します。

これらのように、楽しく学べるコンテンツやプログラムの作成、動物園をはじめとした4園館の魅力発信力を強化することによって、動物園の魅力を高め、中心にある【オレンジ色】の柱4に掲げているように、多くの人が集う動物園を目指します。

### ④ 柱4⇒柱1, 柱2, 柱3⇒柱5

そして、多くの人を訪れることによって得られる収益を、上段の3つの柱、生物多様性の保全、研究、学びの機能強化に活用します。

また、園内の動物舎などの施設整備にも再投資し、柱1に繋がる「動物福祉に配慮した空間づくり」や、柱3に繋がる「楽しみながら学べる展示手法の工夫等」を進めます。これらが、下段の【紫色】の柱5に掲げる、「近くて楽しい動物園」の更なる進化に繋がります。

### ⑤ 柱5⇒柱1, 柱2, 柱3, 柱4

「近くて楽しい動物園」の更なる進化は、来園者目線の園内環境の充実、財源の確保あるいは運営体制の構築など、動物園を運営していく上での基礎となり、全ての柱に還元されます。

以上のように、5つの柱がこのように関連し施策を進めていくことによって、最終的には、最下段に【紺色】記載している、SDGs実現への寄与を目指します。

## (4) コレクションプラン

別途作成中のコレクションプランを参照

## (5) 教育プログラム

別途作成中の教育プログラムを参照





## 資料編



### 共汗でつくる新「京都市動物園構想」の概要

市民ニーズに応えた、抜本的かつ総合的な京都市動物園の施設整備を進めるため、平成21年（2009年）3月に設置した「動物園大好き市民会議」で議論を重ね（専門委員会及び市民委員ワークショップを各5回開催）、「共汗でつくる新「京都市動物園構想」」を策定した。

#### <現構想の構成>

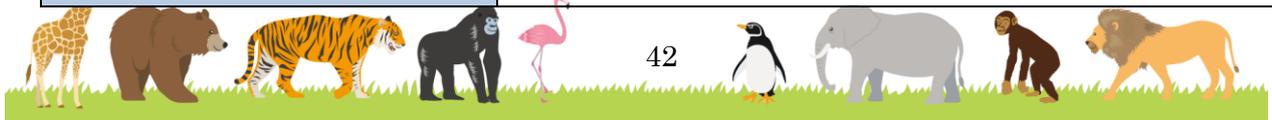
- (1)京都市動物園の現状と課題
- (2)「近くて楽しい動物園」～新たな都市型動物園を目指して
- (3)魅力ある展示に向けた施設整備
- (4)ゾーンテーマに応じた施設整備
- (5)活性化に向けた取組

#### ①基本方針

○現在地での再整備	・琵琶湖疏水の豊かな水源と自然環境の良さなどに鑑み、現在地での再整備
○人も動物も楽しい新たな都市型動物園	・交通の便の良い立地や環境の長所を活かし、限られた面積を最大限に活用することで、動物が入園者に近いという本園の特色、魅力を打ち出し、人も動物も楽しい新たな都市型動物園を目指す
○教育プログラムやサービス（ソフト）の向上	・施設整備の効果による入園者増を一時的なブームに終わらせないよう、教育プログラムやサービス向上等のソフト充実を推進し、ハード整備とソフト充実の相乗効果でリピーター等の確保、集客の推進

#### ②7つのコンセプト

○「近く」で動物たちの大きさやおいを実感し、「いのち」が感じられる動物園	・動物が入園者に「近い」という特色を生かし、五感を刺激し、より動物を身近に感じ、その姿や行動、能力を実感し、野生動物の生息地に思いを馳せる、そうした感性と想像力を育むとともに、「自然」、「いのち」、「こころ」、「人間」について考える場の提供
○全ての人に優しい動物園	・お年寄りやハンディキャップのある方、子育て世代にも配慮した設備を備え、全ての入園者が快適に利用できる施設への転換
○環境に優しい動物園	・いのちの大切さや環境保全の重要性を伝える場としての動物園にふさわしい、環境負荷の少ない設備の導入や環境配慮型の施設への建替え、動物舎暖房への自然エネルギーの導入、雨水利用、動物糞の堆肥化、地元間伐材の利用等木のぬくもりが感じられる施設整備の推進
○楽しく学べる動物園	・動物たちとふれあい、また身近に観察できることを通じて、楽しみながら生物の多様性からいのちの尊さまでを学習できる場の提供



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常駐する京都大学教員の最新の研究結果を、即座に体感できる場の提供</li> </ul>
○安全で安心な動物園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入園者の皆様に緊急情報を正しく伝えるための園内放送設備の改善</li> <li>・緊急・異常事態にいち早く通報できる、動物舎内の不慮の事故発生時に無線で自動的に通報する「緊急通報システム」(全国初) 27箇所設置</li> </ul>
○市民との共汗でつくる動物園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民や市民グループ、ボランティアの方々との共汗による動物園運営</li> </ul>
○「食べる楽しみ」、「買う楽しみ」を大切にしたい動物園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもにも人気のあるレストランメニューや思い出に残るオリジナルグッズの開発、市民(顧客)ニーズに合った商品販売の促進とリピーター確保</li> </ul>

### ③魅力ある展示に向けた施設整備

#### 1) 基本方針

- 繁殖可能な飼育環境の整備
- 研究機関等の活動拠点の整備
- 京都らしいサービス供給が可能となる施設の整備

#### 2) 展示コンセプト

- 環境エンリッチメントに配慮した展示
- 動物を間近に観察できる展示
- 野生動物の保全につながる展示
- 動物の知性を実感できる展示
- ヒトと動物の関係について学べる展示

### ④ゾーンテーマに応じた施設整備

ゾーンごとに「テーマ」を設け、野生動物の保全への動機付けとなるような、魅力ある展示を目指す。ゾーンごとに、飼育展示計画、施設整備計画等を示す。



ゾーン	基本テーマ	施設整備計画
ふれあい広場「おとぎの国」 (約2,700㎡)	【Life いのち】 いのちの尊さ、いのちのつながり	・ヒグマ舎の撤去 ・こども広場遊具の移設 ・「おとぎの国」の建替え
ネコワールド (約1,200㎡)	【Diversity 多様性】 いろいろな違いを発見しよう	・「スカイダンボ」、「猛禽舎」、「ヤマイヌ舎」の撤去 ・「猛禽舎」の建替え
アフリカの草原 (約4,500㎡)	【Watch 観察】 からだのつくりをくらべてみよう	・カバ舎、キリン舎、シマウマ舎、フラミンゴ舎、走鳥類舎の建替え ・アシカ池、ラマ舎、クロエリハクチョウ舎の撤去 ・アシカ池南売店の移転 ・キリン塔(空飛ぶキリン)の移設
サルワールド (約4,900㎡)	【Evolution 進化】 同じ祖先を持つ仲間たちとの出会い	・類人猿舎、サル島の改修 ・オランウータン舎の建替え ・模擬研究サイトの展示(パネルや映像)
京都の森 (約5,600㎡)	【Discovery 発見】 豊かな森を感じてみよう	・カモシカ苑、鳥獣舎の撤去 ・小獣舎横食堂、売店の移設 ・バードケージ、クマ舎、シカ舎、カモシカ舎、キツネ舎、アナグマ舎、タヌキ舎、噴水池の整備 ・古民家風の展示施設
ゾウの森 (約6,500㎡)	【Wonderful/Great 驚き】 知性と大きさに感動	・ゾウ舎、は虫類館、バク舎の建替え ・ホッキョクグマ舎、ペンギン舎、ダチョウ・オオヅル舎、ワラビー舎の撤去 ・ゾウ舎横食堂・売店の移設
教育・管理施設 (約2,600㎡)	・教育機関や研究機関と連携し、教育・研究活動を推進するための施設 ・楽しみながら学ぶための情報発信機能 ・京都の自然への導入口として、地域環境や野生動物の現状を伝える施設	・学習施設・事務所棟、医療施設、野生鳥獣救護センターの建替え ・小獣舎、キジ舎の撤去
利便施設、休憩エリア (約9,000㎡)	・全ての入園者に配慮 ・琵琶湖疏水や東山借景を活かした快適で緑豊かな空間づくり ・市民や企業との協働による活性化を図り、「近くて楽しい動物園」づくりを推進する拠点	・芝生広場、正面エントランス、東門エントランス、中央休憩エリアの整備 ・中央売店の建替え ・雨天休憩所の改修 ・大水禽舎、フクロウ舎の撤去
バックヤード・研究施設 (約1,750㎡)	・工作所や資材置き場等管理施設を整備し、園全体のバックヤードエリアとして機能 ・飼育、研究施設として人工授精、人工ふ化、人工保育及び一時収容施設	・ツシヤマメコ繁殖棟、飼育研究棟、繁殖棟、工作所の整備 ・予備舎の改修、整備 ・クマ舎、走鳥類舎、シマウマ舎の撤去



### ⑤活性化に向けた取組

- 教育プログラムの策定
- 市民との共汗でつくる動物園
- サービスの向上
- 新たな入園者の開拓

